

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月10日
ジーエルサイエンス株式会社
東証STD (7705)

- ハイライト P. 4
- 決算概要（2024年3月期）
 - ・ 全社 P. 5
 - ・ キャッシュフロー計算書 P. 7
 - ・ 連結貸借対照表 P. 8
 - ・ セグメント別 P. 9
 - ・ 施策と進捗状況 P. 24
- 業績・配当予想等／施策（2025年3月期） P. 26
- トピックス P. 33

ハイライト

1

【全社】減収・減益

売上高： 37,148百万円 ▲4.0% ▲1,531百万円（前期：38,679百万円）

営業利益： 5,714百万円 ▲5.3% ▲320百万円（前期：6,034百万円）

2

【分析機器事業】増収・増益

売上高： 18,281百万円 +6.5% +1,118百万円（前期：17,163百万円）

営業利益： 1,962百万円 +3.9% +74百万円（前期：1,888百万円）

（要因）【増収】消耗品（多分野）+【増収】装置、海外も好調

3

【半導体事業】減収・減益

売上高： 17,029百万円 ▲14.9% ▲2,973百万円（前期：20,003百万円）

営業利益： 3,615百万円 ▲11.1% ▲452百万円（前期：4,068百万円）

（要因）【需要減退】PC・スマートフォン向けメモリー在庫滞留もやや緩和

【受注残】高水準を維持

4

【自動認識事業】増収・増益

売上高： 1,836百万円 +21.3% +322百万円（前期：1,513百万円）

営業利益： 134百万円 +98.5% +66百万円（前期：67百万円）

（要因）【好調】機器組込製品：医療用（バイタルチェック含む）・入退室システム
全てのサブセグメントで増収増益

決算概要 (2024年3月期) (全社)

減収・減益

分析機器・自動認識は増収増益も、半導体が依然需要低調

【分析機器】 **増収増益**：多くの分野で**消耗品が増収**、**装置類も増収**
海外売上も好調（**アジア**や**北米**など）

【半導体】 **減収減益**：メモリーを中心に**在庫が滞留**（やや**緩和傾向**）
半導体市場は引き続き着実な拡大見込み（**生成AI分野**）
高水準の**受注残**を引き続き維持

【自動認識】 **増収増益**：**機器組込製品**：医療用（**バイタルチェック**含む）・入退室システム
全てのサブセグメントで増収増益

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	増減率	増減額
売上高	38,679	37,148	▲4.0%	▲1,531
営業利益	6,034	5,714	▲5.3%	▲320
営業利益率	15.6%	15.4%	—	▲0.2 pt
経常利益	6,468	6,108	▲5.6%	▲359
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,499	3,430	▲2.0%	▲68

キャッシュフロー計算書

	2023年3月期	2024年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	1,986	3,526	+1,540
投資活動による キャッシュ・フロー	▲3,596	▲1,685	+1,910
財務活動による キャッシュ・フロー	1,891	▲1,188	▲3,079
現金及び現金同等物の 増減額	436	819	+383
現金及び現金同等物の 期首残高	5,611	6,047	+436
現金及び現金同等物の 期末残高	6,047	6,866	+819

主な増減要因

【営業CF】 2023年3月期：半導体事業の棚卸資産を戦略的に増加

2024年3月期：その棚卸資産の増加幅の縮小により営業CFが改善

【投資CF】 2023年3月期：テクノオーツ中国第三工場の設備投資支出が増大

2024年3月期：支出縮小

【財務CF】 2023年3月期：収入は主に約30億円の長期借入による

連結貸借対照表

単位：百万円

単位：百万円

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額
流動資産合計	30,038	33,350	+3,311
有形固定資産	17,026	17,065	+38
無形固定資産	496	637	+141
投資その他の資産	3,449	4,513	+1,063
固定資産合計	20,972	22,216	+1,244
資産合計	51,011	55,567	+4,555

	2023年 3月期	2024年 3月期	増減額
流動負債合計	10,314	10,607	+293
固定負債合計	5,119	4,750	▲368
負債合計	15,433	15,358	▲74
株主資本合計	28,588	31,352	+2,763
その他の包括利益 累計額合計	1,301	2,290	+988
非支配株主持分	5,687	6,566	+878
純資産合計	35,578	40,209	+4,630
負債純資産合計	51,011	55,567	+4,555

決算概要（2024年3月期） （セグメント別）

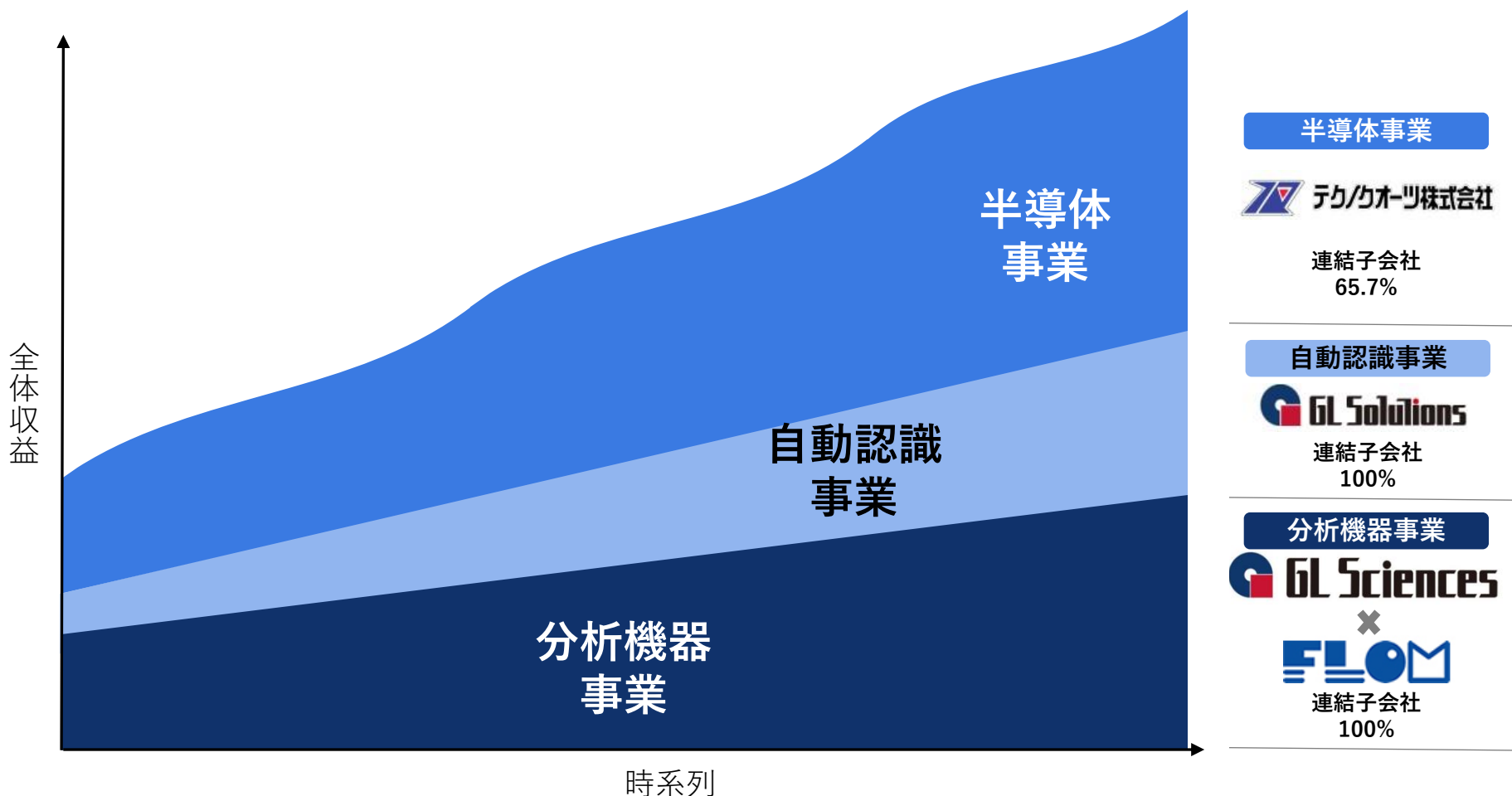
事業構成について

3つの事業で成長拡大を推進します。

分析機器事業 (安定成長事業)

半導体事業 (高成長事業)

自動認識事業 (新規事業)



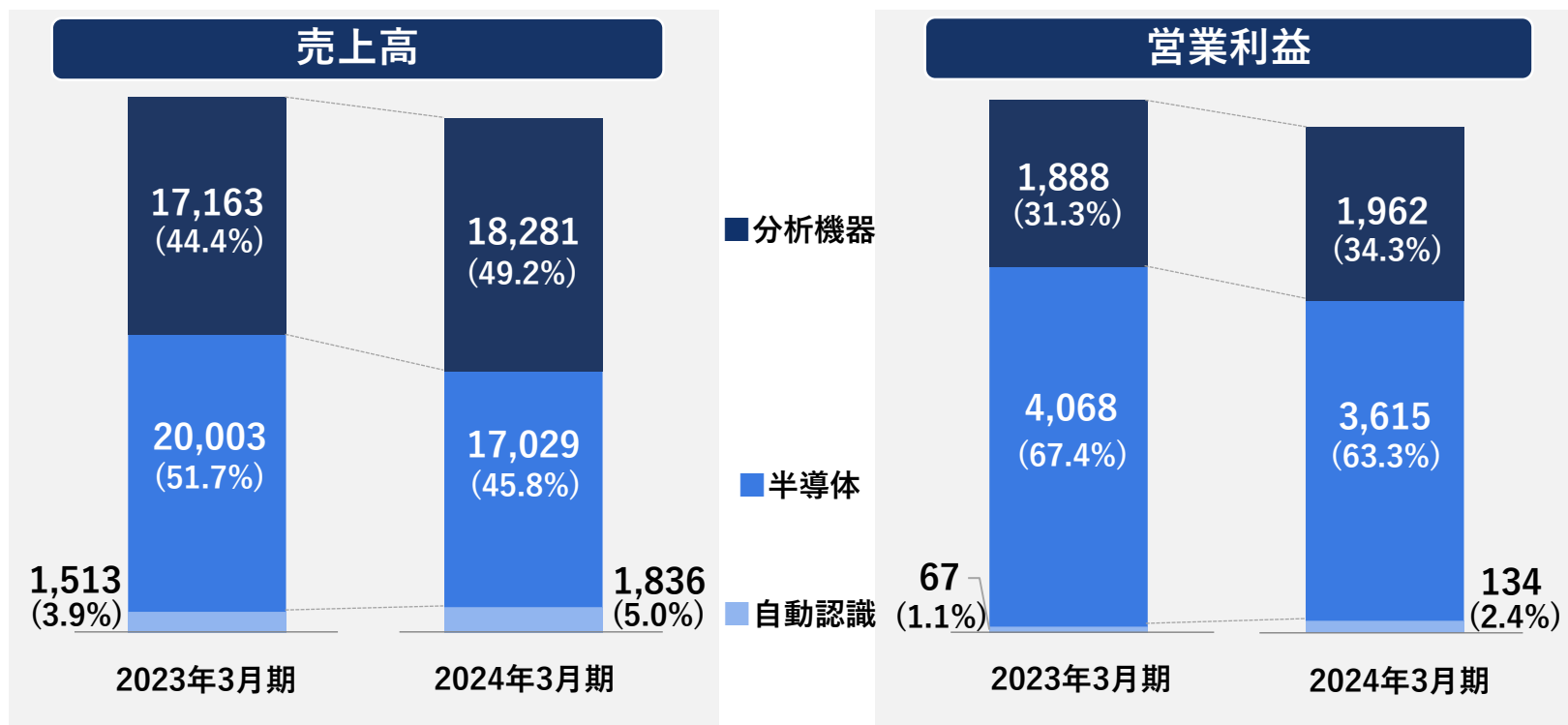
セグメント概要

【売上高】 分析機器事業と半導体事業の金額はほぼ同程度
2事業で全体の約**95%**を占める

【営業利益】 分析機器事業は約**3割**、半導体事業は約**6割**を占める

単位：百万円

	売上高	売上高構成比	営業利益	営業利益構成比
分析機器事業	18,281	49.2%	1,962	34.3%
半導体事業	17,029	45.8%	3,615	63.3%
自動認識事業	1,836	5.0%	134	2.4%

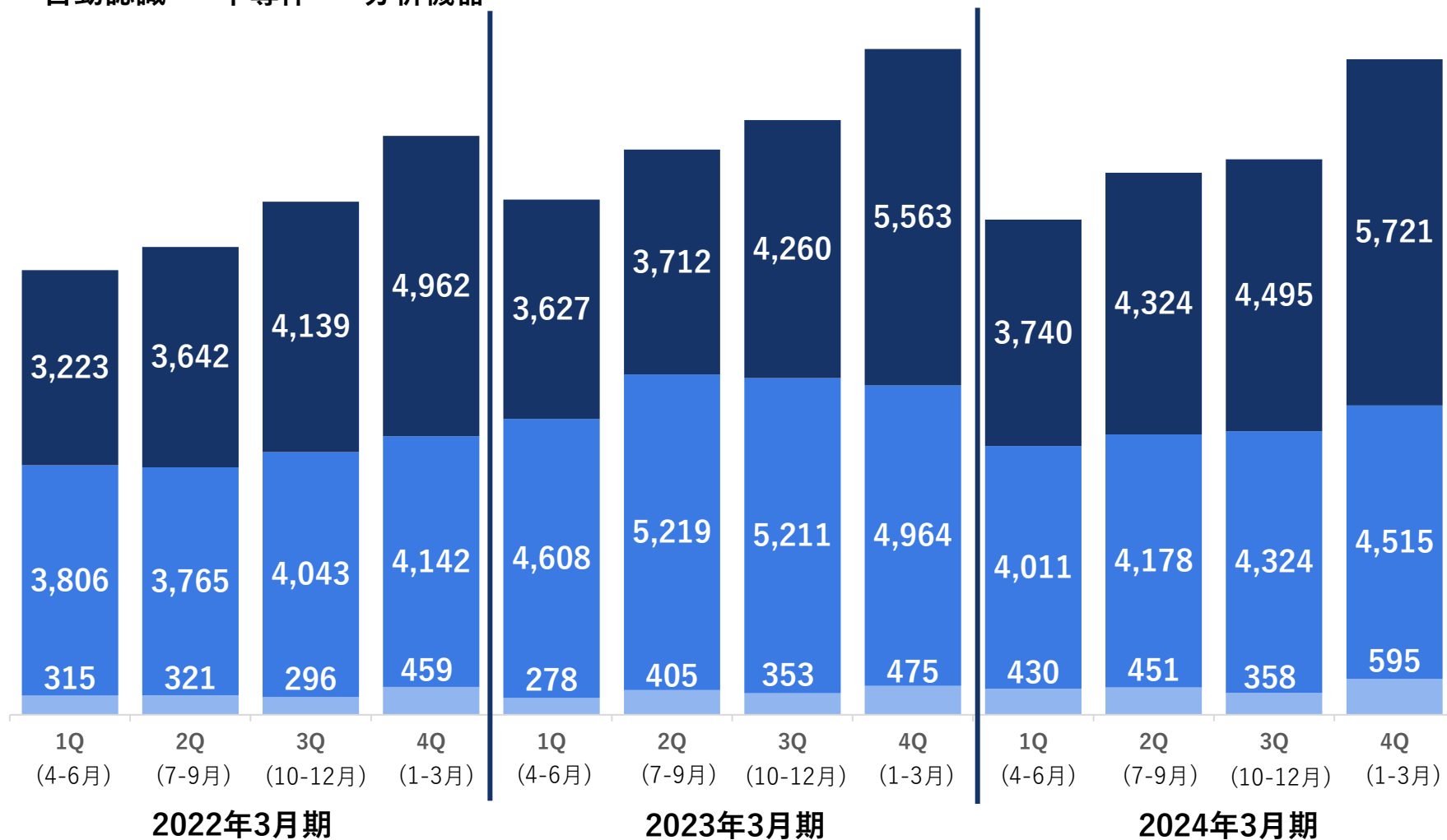


売上高四半期別推移（セグメント別）

売上高

■ 自動認識 ■ 半導体 ■ 分析機器

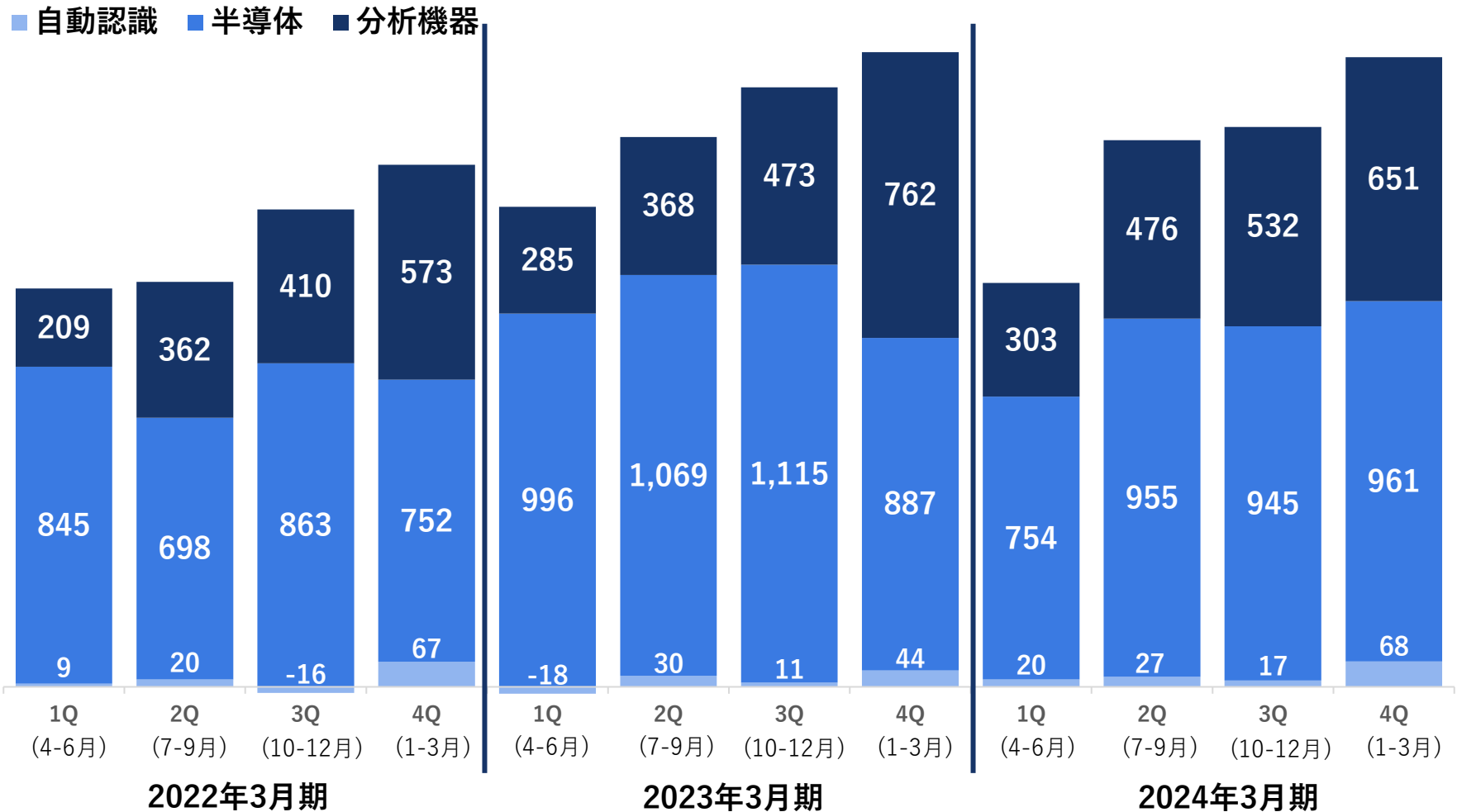
単位：百万円



営業利益四半期別推移（セグメント別）

営業利益

単位：百万円



決算概要（セグメント別）：分析機器事業

増収・増益

【増収】消耗品（多分野）＋海外売上が好調

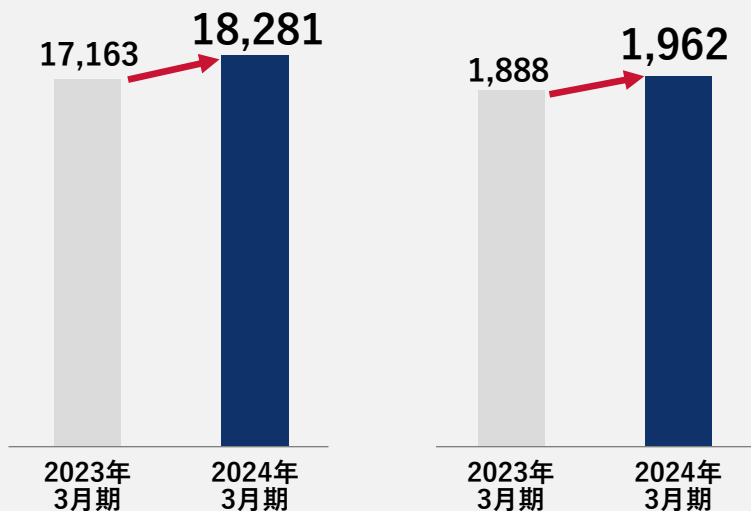
単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	増減率	増減額
売上高	17,163	18,281	+6.5%	+1,118
営業利益	1,888	1,962	+3.9%	+74
営業利益率	11.0%	10.7%	－	▲0.3 pt

売上高

営業利益

単位：百万円



要因・その他

<国内売上高>

【多分野で増収】

- ・ 消耗品：食品、環境、受託分析、無機化学など
 - 特にLC用カラム、部品類、標準試薬、アフターサービス関連が好調
- ・ GC関連装置／他社装置が好調（水質分析、受託分析における自社／他社製LC装置、カーボンニュートラル分野の特注装置など）

（装置類納入先の設備工事遅延等の影響は限定的）

<海外売上高>

【増収】

- ・ アジアや北米などを中心に幅広い地域で増収
 - 製薬企業向けLC用カラム、環境分析用消耗品が好調
- ・ OEM製品も引き続き好調を維持

分析機器事業（当社の強み）

日本国内では**分析に関する技術的知識も有する営業部隊**が、顧客のニーズに合わせた**アプリケーション提案**からの装置販売と、導入後も必要になる**消耗品販売**を中心に展開

	売るもの	製品知識	販売後	利益率
一般的な装置メーカー	自社製品のみ	自社製装置に限り ◎	メンテナンスと更新の対応が中心	◎
一般的な販売店	契約しているメーカーの製品を幅広く	多様な製品を取り扱う反面、専門領域に関してはメーカーのサポートを要する場合もある	消耗品も随時案内 技術相談の対応可能範囲は限定的	△
ジェエルサイエンス	自社 + 他社製品	自社製品の知識を応用することで他社製品も◎	消耗品も随時案内 技術相談に対応するだけでなくアプリケーション（応用データ）も提案	◎ 自社製品販売により、純粋な販売店よりも利益率は良い

分析機器事業：地域別売上高内訳

国内が**8割弱**、海外が**2割強**（主にアジア） いずれも堅調

単位：百万円

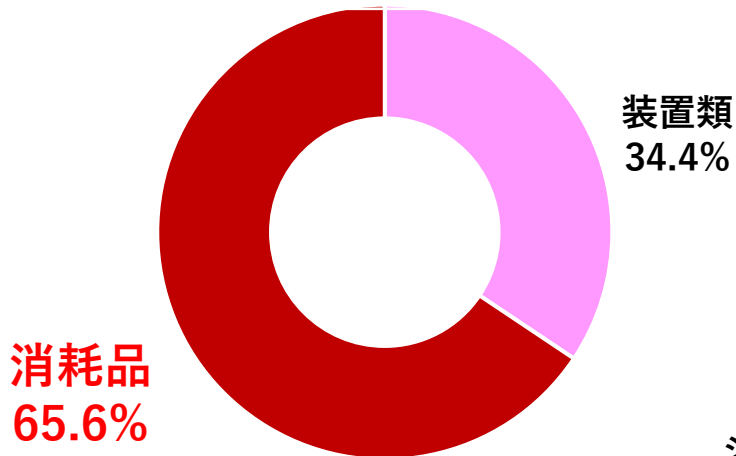
	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比		2024年3月期 構成比(%)
			増減率(%)	増減額	
国内	13,224	14,071	+6.4%	+846	77.0%
海外	3,938	4,210	+6.9%	+271	23.0%
北米	434	544	+25.2%	+109	3.0%
アジア	2,572	2,717	+5.6%	+144	14.8%
その他	931	948	+1.9%	+17	5.2%
合計 (国内+海外)	17,163	18,281	+6.5%	+1,118	100.0%

分析機器事業 販売形態別比率

売上高構成比

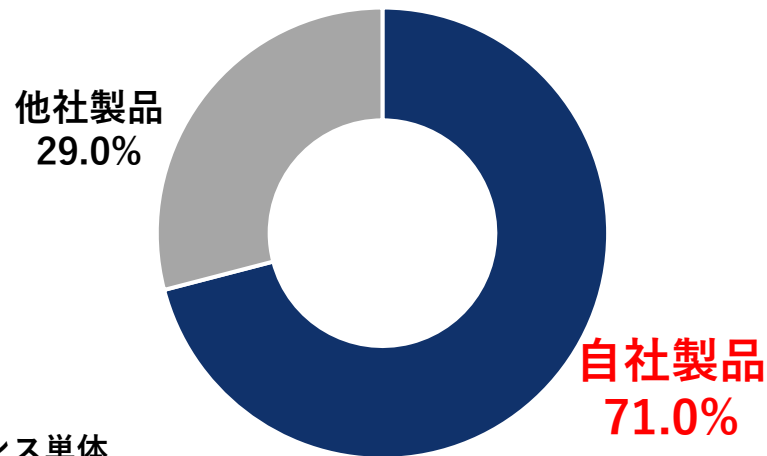
消耗品 対 装置類

消耗品：約7割



自社製品 対 他社製品

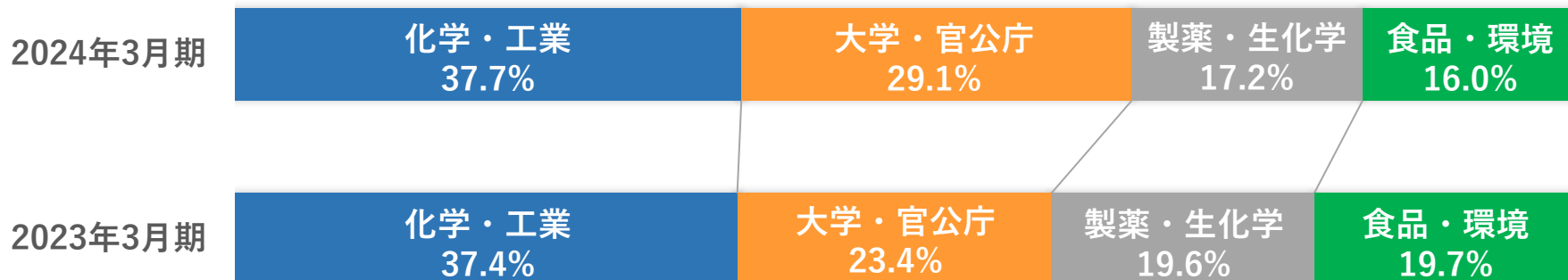
自社製品：約7割



ジェーエルサイエンス単体

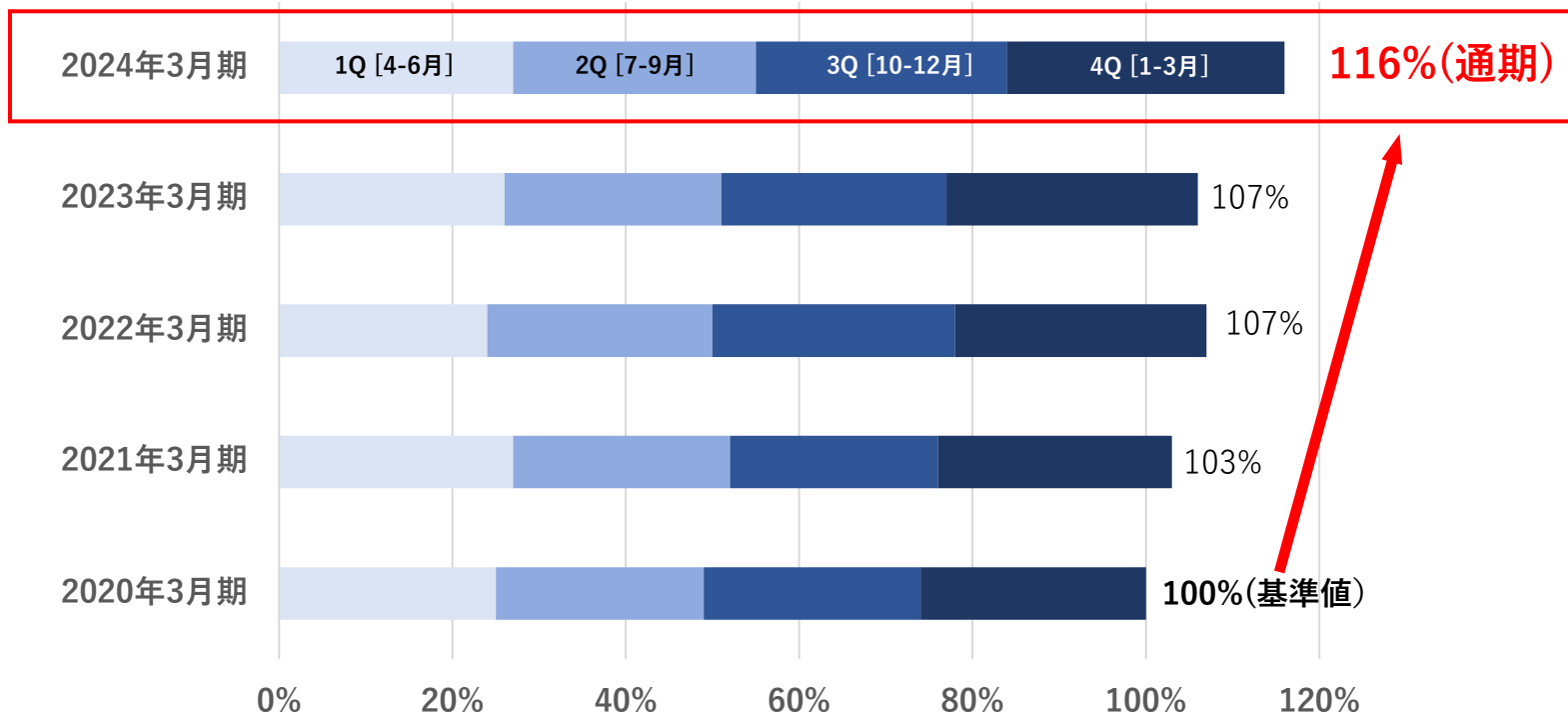
販売先別売上高構成 (国内)

化学・工業分野が最も多く、約4割を占める



自社製消耗品「イナートファミリー※」販売好調

2024年3月期は**116%**の実績を達成
(2020年3月期(コロナ前)の年平均売上金額を基準 (100%) とした場合)



注：ジーエルサイエンス単体の数値（連結対象となる海外子会社としての売上金額は含まず）

※イナートファミリー：分析機器事業の**自社製消耗品**の中でも、利益貢献度が非常に高い主力の製品群
中心製品は**LCカラム**、**固相抽出カートリッジ**、**GCカラム**の3種類

決算概要（セグメント別）：半導体事業

減収・減益

PC・スマートフォン向け半導体は需要減退も、受注残高は引き続き高水準を維持

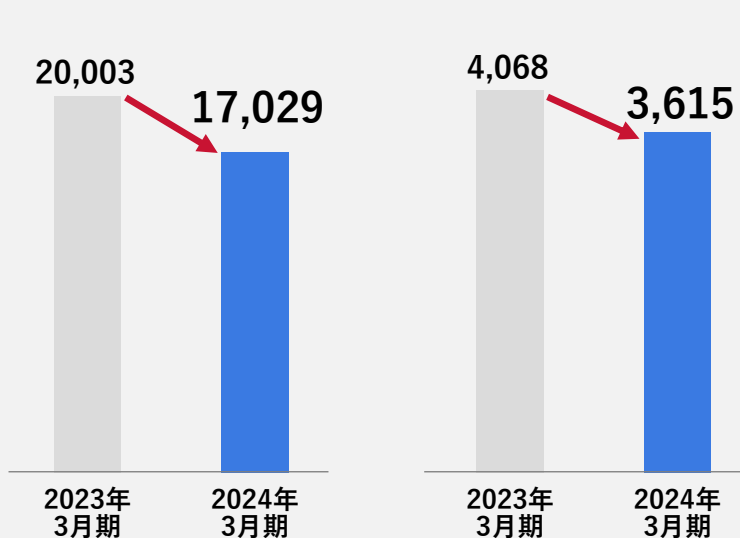
単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	増減率	増減額
売上高	20,003	17,029	▲14.9%	▲2,973
営業利益	4,068	3,615	▲11.1%	▲452
営業利益率	20.3%	21.2%	—	+0.9 pt

売上高

営業利益

単位：百万円



要因・その他

【－需要減退】

- ・メモリーを中心に在庫滞留が続いていたが、やや緩和

【＋半導体市場回復への取り組み】

- ・新規需要の掘り起こし
- ・国内増産体制の準備
- ・その他の業務改善活動の促進

【＋生成AI市場の需要拡大】

- ・先端半導体製造工場の新設・増設（国内外）
- ・積極的な設備投資 → 着実な成長の期待

【＋受注残】

- ・高水準の受注残を維持

半導体事業：地域別売上高内訳

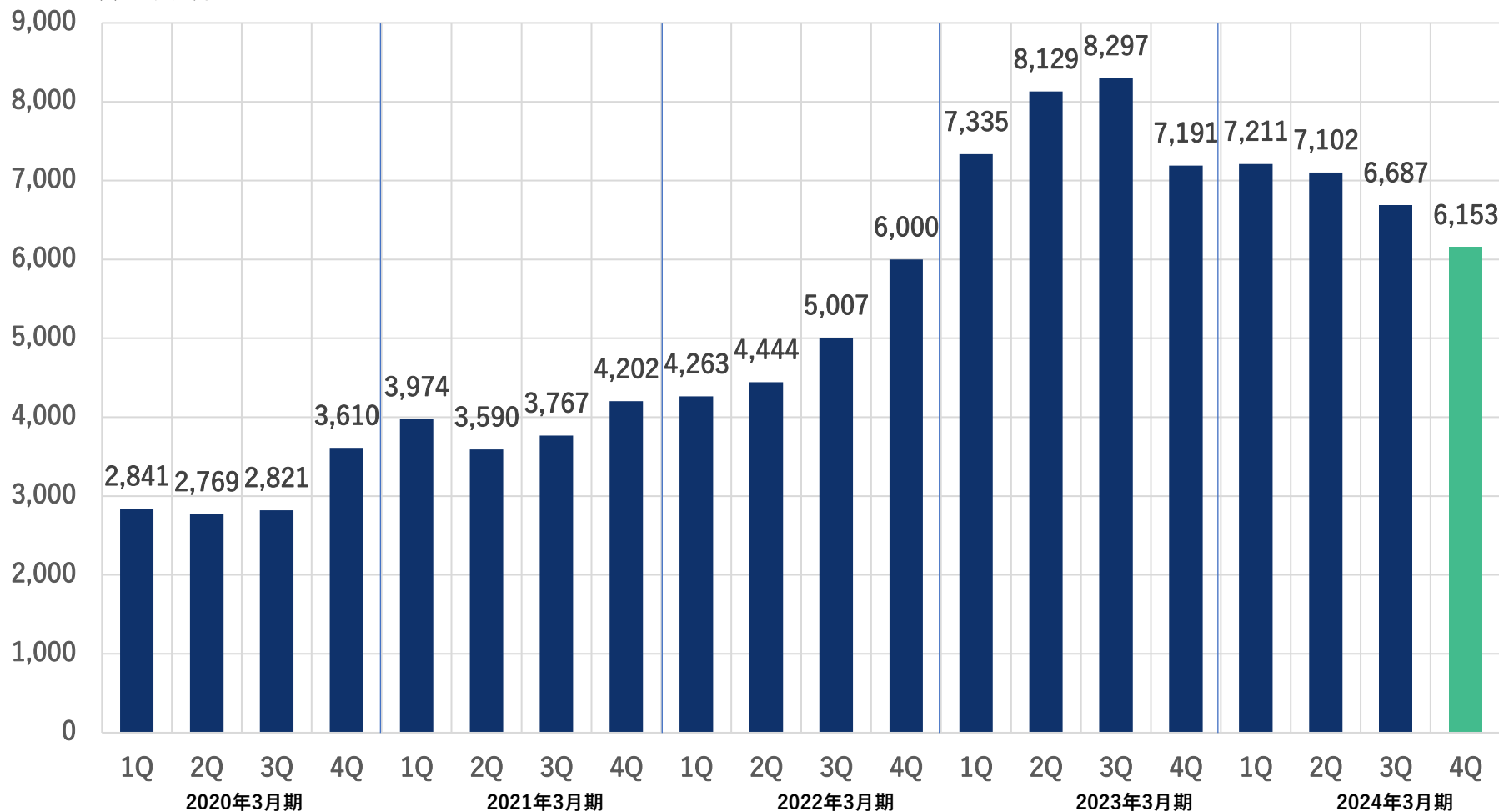
国内と海外の売上はほぼ同等

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比		2024年3月期 構成比(%)
			増減率(%)	増減額	
国内	9,895	8,192	▲17.2%	▲1,703	48.1%
海外	10,107	8,837	▲12.6%	▲1,269	51.9%
北米	792	687	▲13.4%	▲105	4.0%
アジア	9,306	8,136	▲12.6%	▲1,169	47.8%
その他	8	14	+72.9%	+6	0.1%
合計 (国内+海外)	20,003	17,029	▲14.9%	▲2,973	100.0%

半導体事業：受注残推移

単位：百万円



決算概要（セグメント別）：自動認識事業

増収・大幅増益

全てのサブセグメントにおいて増収増益

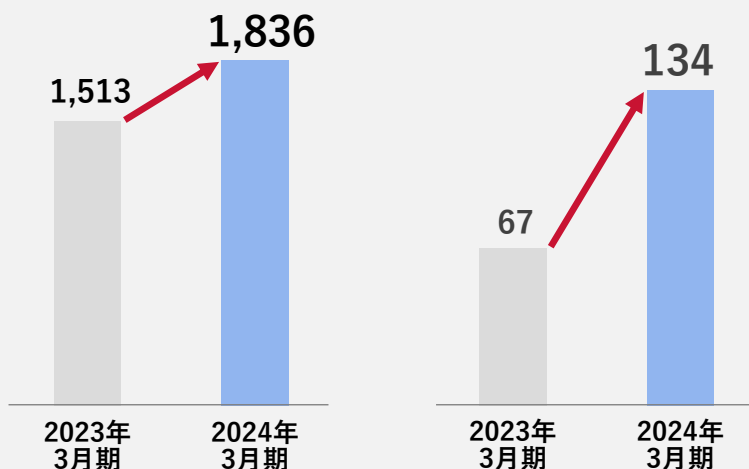
単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	増減率	増減額
売上高	1,513	1,836	+21.3%	+322
営業利益	67	134	+98.5%	+66
営業利益率	4.5%	7.3%	-	+2.8 pt

売上高

営業利益

単位：百万円



要因・その他

全てのサブセグメント（「機器組込製品」「完成系製品」「その他」）において増収増益

【+復調傾向】

- 各分野での顧客調達計画が復調しており、中長期的なフォーキャストも共有・合意

【+出荷堅調】

- セキュアマイコンを搭載した機器組込製品
 - 医療用（バイタルチェックシステム装置等）
 - 入退室管理システム
- 住居関連施設向け自動認識用その他製品

業績予想に対する達成率

売上高、営業利益ともにほぼ予想通りの水準で着地

単位：百万円

		2024年3月期 業績予想値※	2024年3月期 実績	達成率
売上高	分析機器事業	18,310	18,281	99.8%
	半導体事業	16,450	17,029	103.5%
	自動認識事業	1,780	1,836	103.2%
	売上高合計	36,540	37,148	101.7%
営業利益		5,780	5,714	98.9%
経常利益		6,050	6,108	101.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益		3,500	3,430	98.0%

※ 2023年10月31日修正の業績予想値

各セグメントで業績改善に向けた取り組みを積極的に推進

施策

進捗状況 (通期)

	施策	進捗状況 (通期)
分析機器事業	<ul style="list-style-type: none"> LC充填カラムの販売強化 	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上が牽引し、通期の販売実績は2023年3月期を上回った。 価格改定や為替による影響だけでなく、数量ベースでも増加。
	<ul style="list-style-type: none"> 次世代エネルギー・カーボンニュートラル関連領域の事業拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 主に化学・工業分野やアカデミア向けでカスタムメイド品も含めたガスクロマトグラフ関連装置が好調。
半導体事業	<ul style="list-style-type: none"> アメリカの対中国輸出規制への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年3月期の業績への影響はほとんどなし。 将来的な規制強化に備えた中国国内の半導体製造装置メーカーへのアプローチは2025年3月期も継続。
自動認識事業	<ul style="list-style-type: none"> セキュアマイコン搭載機器の市場投入 	<ul style="list-style-type: none"> 完成系製品のOEM製造、機器組込製品のOEM開発は順調に進行。類似市場からの引合い実現に向けた仕様の協議も活性化。
	<ul style="list-style-type: none"> パーキング市場向けソリューションの提供開始 	<ul style="list-style-type: none"> 第2～第4四半期での各種評価検証を経て量産仕様を概ね決定。 2026年3月期の市場リリースを目標として量産試作・初ロット製造を予定。

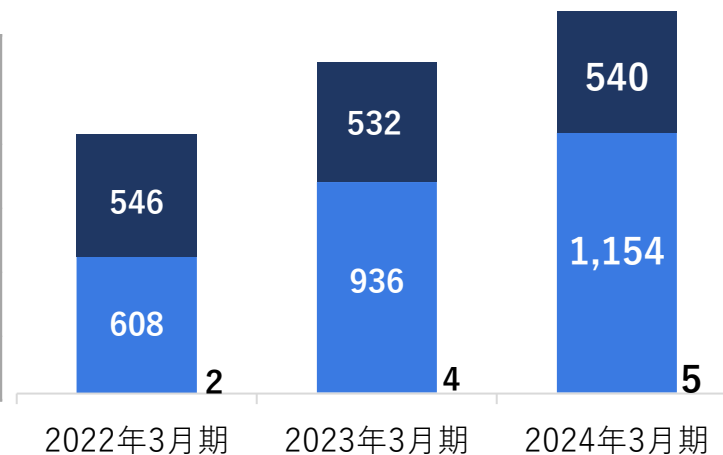
減価償却費と設備投資額の推移

2022年3月期～2024年3月期

【減価償却費】

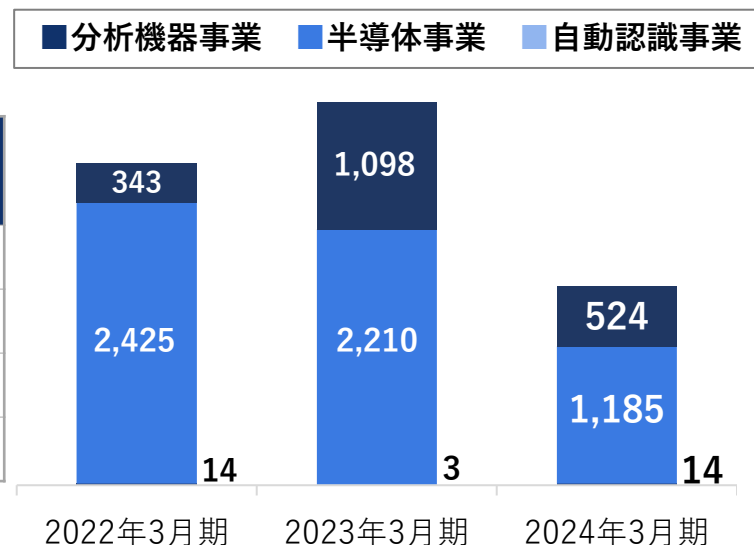
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	増減率	増減額
分析機器事業	546	532	540	+1.5%	+7
半導体事業	608	936	1,154	+23.3%	+217
自動認識事業	2	4	5	+21.0%	+0
合計	1,157	1,472	1,698	+15.4%	+226

単位：百万円



【設備投資額】

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	増減率	増減額
分析機器事業	343	1,098	524	▲52.2%	▲573
半導体事業	2,425	2,210	1,185	▲46.4%	▲1,025
自動認識事業	14	3	14	+315.0%	+10
合計	2,783	3,312	1,722	▲48.0%	▲1,589



**業績・配当予想等
(2025年3月期)**

業績・配当予想（2025年3月期） （全社）

収益は堅調に推移

（共同持株会社の業績予想については、改めて発表する予定）

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 （予想※）	増減率 （前期比）	増減額 （前期比）
売上高	37,148	39,120	+5.3%	+1,971
営業利益	5,714	5,980	+4.7%	+265
営業利益率	15.4%	15.3%	—	▲0.1 pt
経常利益	6,108	6,030	▲1.3%	▲78
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,430	3,320	▲3.2%	▲110
年間配当(円)	70	—	—	—

※経営統合後の配当は未定

（注） 当社は、2024年10月1日付でテクノクーツ株式会社と共同持株会社設立による経営統合を行う予定であります。今回の業績予想につきましては、現在の当社組織を前提に算定しております。

業績予想（セグメント別）（2025年3月期）



収益は堅調に推移

（共同持株会社の業績予想については、改めて発表する予定）

単位：百万円

		2024年3月期 実績	2025年3月期 (予想※)	増減率 (前期比)	増減額 (前期比)
分析機器事業	売上高	18,281	19,200	+5.0%	+918
	営業利益	1,962	2,130	+8.5%	+167
	営業利益率	10.7%	11.1%	—	+0.4 pt
半導体事業	売上高	17,029	17,960	+5.5%	+930
	営業利益	3,615	3,730	+3.2%	+114
	営業利益率	21.2%	20.8%	—	▲0.4 pt
自動認識事業	売上高	1,836	1,960	6.7%	+123
	営業利益	134	120	▲10.8%	▲14
	営業利益率	7.3%	6.1%	—	▲1.2 pt

（注） 当社は、2024年10月1日付でテクノクーツ株式会社と共同持株会社設立による経営統合を行う予定であります。今回の業績予想につきましては、現在の当社組織を前提に算定しております。

分析機器事業	<ul style="list-style-type: none">・ 国内：提供価値の拡大への取り組み・ 海外：自社製品の拡販
半導体事業	<ul style="list-style-type: none">・ 中国の半導体製造装置メーカーへの拡販（継続）・ 今後の設備投資計画の具体化
自動認識事業	<ul style="list-style-type: none">・ システム関連：提携企業とのコラボレーション・ モジュール関連：新規開発・用途拡大

国内：提供価値拡大への取り組み

- ・ 他社装置のフォロー案件の増加（フィールドエンジニア※による）
- ・ 製品データベースの拡充：ECサイトの活用を見据えて

※ フィールドエンジニア：
装置の設置やメンテナンス等を担当する技術者

海外：自社製品の拡販

- ・ 国内中心で販売していた自社製品のうち
実績豊富な装置類を中心とした海外での拡販



全自動固相抽出装置
AquaTrace ASPE899



ページ・トラップ濃縮導入装置
PT 7000

中国の半導体製造装置メーカーへの拡販（継続）

今後の設備投資計画の具体化

- ・ 火加工製品※の**製造キャパシティ**の拡張
- ・ 機械加工の一部**工程の自動化**

※ 火加工（ひかこう）：

石英製品のガラス加工方法の1つ。機械を使用せず、バーナー等で炙ることにより、くもったガラスを透明にする技術。溶接も一種の火加工。



蔵王南工場の隣接地



アイシンテック喜多方工場

システム関連： 提携企業とのコラボレーション

- ・ 当事業 **モジュール搭載機器の販売協業**
- ・ **防災・災害対応システム**の普及促進
- ・ リニューアルシステムへの機能追加



「ストキャビUHF」

モジュール関連：新規開発・用途拡大

- ・ 交通系ICカード対応リーダーの拡販と応用
- ・ セキュアマイコン搭載による **セキュリティ対策強化**
- ・ フィルムアンテナの利便性の訴求
(透過アンテナ用途及びフレキシブルアンテナ用途)



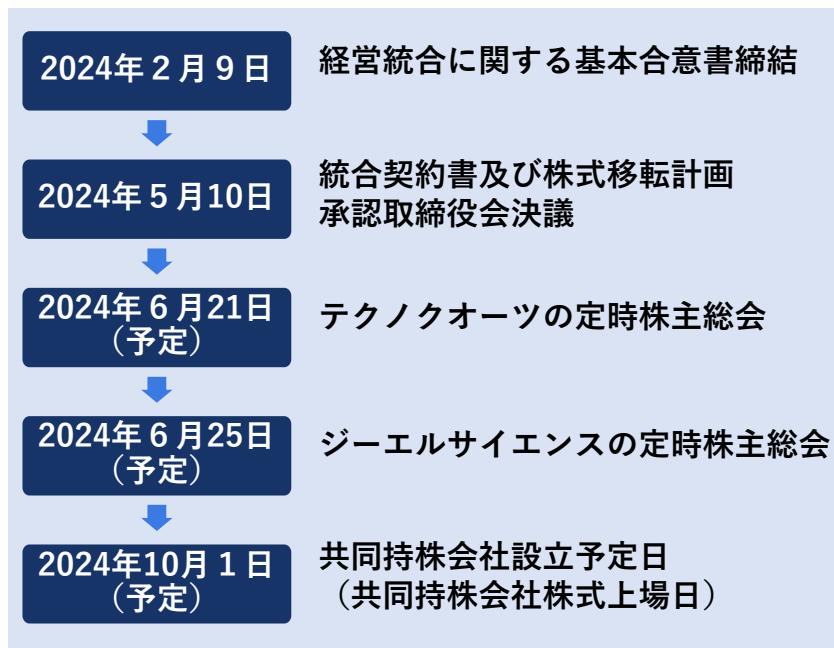
トピックス

テクノクオーツとの経営統合について

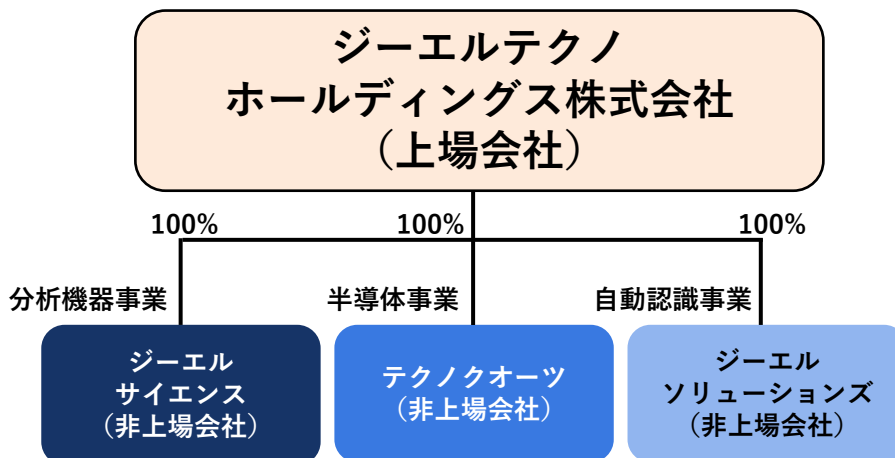
経営統合の概要

統合方法	共同株式移転による経営統合
株式移転比率	ジーエルサイエンス：テクノクオーツ=1：2.10

今後のスケジュール



共同持株会社体制





※ジーエルサイエンス子会社のジーエルソリューションズは10/1以降に共同持株会社直接保有の完全子会社とする予定

経営統合の背景と目的

グループ経営を事業会社から分離することで**強固なグループ経営基盤を構築**
最適な経営資源配分及び成長機会の捕捉強化により**企業価値向上を加速**

共通の経営理念

「社会に対し社会性を十分発揮してその存在価値を高め、
社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持、発展をならしめること」

共通の経営理念		
会社名	 GL Sciences	 テクノーツ株式会社
業種	分析機器事業	半導体事業
主要製品	ガスクロマトグラフ及び 液体クロマトグラフの装置・消耗品	半導体製造装置用石英ガラス&シリコン製品
業態	製造業（開発・製造・販売）	製造業（開発・製造・販売）
顧客層	多分野に展開(化学,官公庁,環境,製薬など)	半導体製造装置市場向けが主体
仕入先	多様なサプライヤーから供給を受けている	特定の仕入れ先への依存度が高い
特徴	市場のボラティリティは小さく、傾きは 緩やかながらも着実な成長が期待できる 収益基盤は安定していて景気に左右されにくい	投資金額が成長に直結 景気等による影響も受けやすい一方、 今後大きな成長が期待できる

新設する共同持株会社の概要

商号	ジーエルテクノホールディングス株式会社 (英名 : GLTECHNO HOLDINGS, INC.)
本社所在地	東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
機関設計	監査等委員会設置会社
代表者及び 役員の就任予定	代表取締役社長 長見 善博 代表取締役副社長 園田 育伸 取締役 芹澤 修 社外取締役 (監査等委員) 齋藤 隆広 社外取締役 (監査等委員) 永沢 裕美子 社外取締役 (監査等委員) 森田 岳人
資本金	300百万円
設立予定日	2024年10月1日
決算期	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場

2027年3月期 グループ経営目標 売上高500億円

経営統合の目的	取り組み
成長機会の捕捉	グループ経営機能の強化 <ul style="list-style-type: none">・グループ全体における経営戦略の立案・ノウハウの一元的な管理・蓄積・インオーガニック成長の追求
	経営資源配分の最適化 <ul style="list-style-type: none">・成長分野に対する積極的な投資
経営効率の向上	管理機能の集約検討 <ul style="list-style-type: none">・戦略系業務 全社戦略や資源配分など・管理系業務 総務、経理、財務、IRなど・人事系業務 採用、教育、育成など・IT系業務 DX推進、将来システム計画など
意思決定の迅速化	グループ経営の戦略策定と事業執行の分離 <ul style="list-style-type: none">・各事業の収益性・経営責任の明確化・各事業の自立化による意思決定機能の迅速化・機動性の向上・子会社で行っている事業の強化

※中期経営計画は2024年9月を目途に公表予定

◇ 非化石証書付きの再エネ100%の電力を使用

ジーエルサイエンスの福島工場では、2022年の12月より、すべての製造施設で再生エネルギー100%の電力を使用しています。



◇ やまがた太陽と森林の会クレジット売買契約を締結

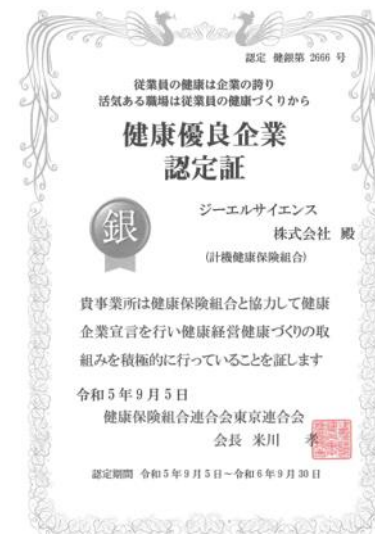
テクノクオーツは「J-クレジット制度」を通して「やまがた太陽と森林（もり）の会クレジット」売買契約を締結し、山形県の環境保全事業に貢献しています。



◇ 健康優良企業「銀の認定」

ジーエルサイエンスは、健康保険組合連合会東京連合会に「健康企業宣言」を行い、企業全体で社員の健康づくりに取り組みました。

この取り組みにより、「健康優良企業（銀の認定）」を取得しています。



◇ テクノクオーツが「紺綬褒章」を受章

企業版ふるさと納税制度の活用や労働力確保・UIターン就職応援事業等を通じて地域社会を支援してきた結果、山形市、山形県による推薦があり、この度テクノクオーツが褒章を受章することとなりました。



免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

【当資料に関するお問い合わせ先】

ジーエルサイエンス株式会社

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>

支える、あらゆる分析を。

Separation Sciences for All

